あし
ハイキングクラブ

ちんぐるま

第３２６号
2016年１２月　７日発行

先月の山行

☆　１１月１３日（日）三頭山　　山行報告参照
☆　　２７日（日）鷲鞍岳　　山行報告参照

１２月の予定

★　７日（木）忘年会

☆　１１日（日）飯降山　大野一望登り３時間危険なし
　　ＣＬ宮本重信

☆　１８日（日）寺尾観音２２８ｍと海岸ハイキング

１月の予定

☆　２日（月）荒島岳　雪山装備必要

★　１２日（木）例会
☆　１５日（日）
　　ＣＬ

☆　２９日（日）
　　ＣＬ

冬季は積雪を考慮して計画を致します。

山行申込み方法

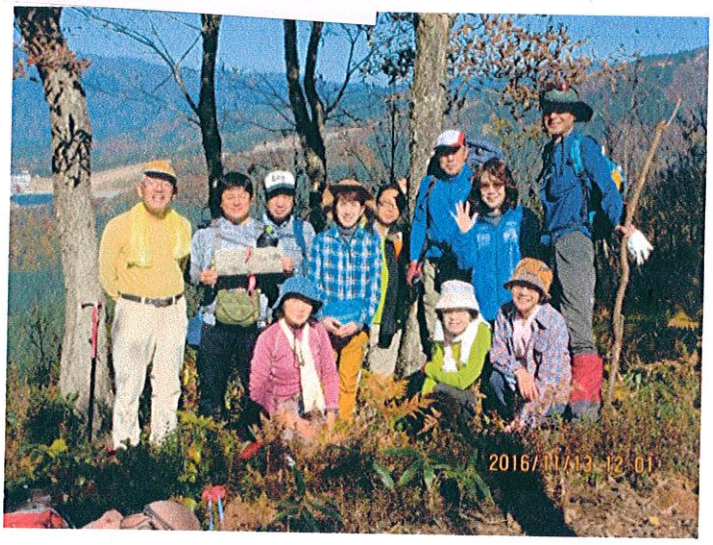
・山行申込みの基本は例会時です。
（都合により例会に出席できないが、山行込みをしたい場合は、例会当日２０時半頃、宮本の携帯０９０－８２６０－８１０８へ連絡してください。）
・例会時に未定であったり、山行申込済で都合によりいけなくなった場合は、前々日夜までに山行リーダーへ直接連絡してください。

山行計画書を提出して下さい

クラブ山行の場合はリーダーが、個人山行の場合はそれぞれで山行前日迄に宮本会長まで。

大師山 550m～三頭山 777m～平泉寺周回

活動時間６時間強　駐車地点は雪研より 33ｋｍ



雪研７時集合。快晴。気温はこの時期にしては高い。白山は数日前に山頂の雪化粧を終えた。大師山清大寺・越前大仏の裏手山側に駐車。整備された登山道で、樹木名札が下げられたり、休憩どころに簡単な名称とともに杭が打たれたりしている。

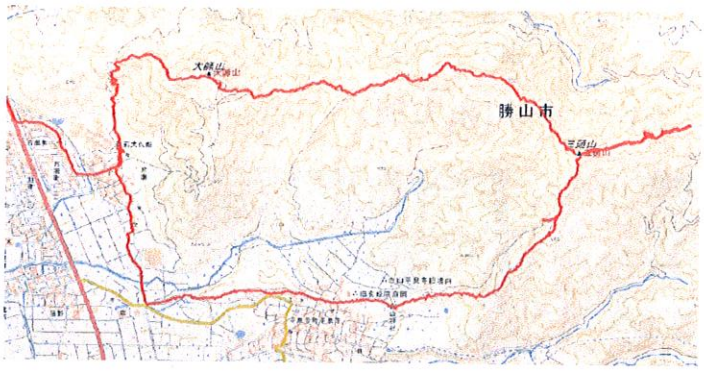
率直に申し上げて、昼食時以外、俯瞰景色はあまり記憶にない(笑)。また、休憩時間にあまり休憩していない（自らの意志による）。さらにまた、お風呂であんなにアクビをしたのも記憶にない（道なき斜面での長時間にわたる体勢維持による疲労？）。

三頭山山頂にて 11 時過ぎに昼食開始。そう広くない山頂は、他パーティも加わって、20 数名の大所帯となった。ほぼ同じ等高にスキージャム勝山があり、パラグライダーが１機、悠然と舞っていた。

昼食後、法恩寺山方面に少し足を伸ばす。ここは左右に壁を感じるほどの踏み込まれた道となっている禅定道だ。何千何万の人々が通い、これからも通うのだろう…ここを通う修行僧の脳裏にあったものは…毒キノコで

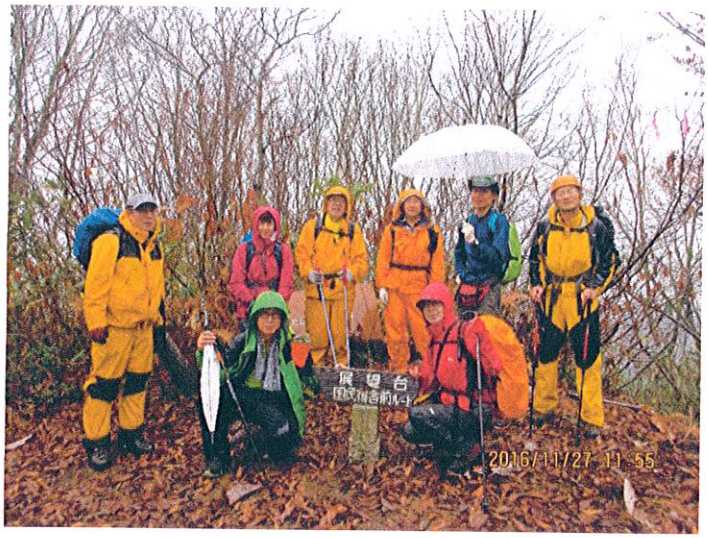
息絶えた僧も居ただろう…あらためて凡人（私）の想像力の貧しさを痛感する。

三頭山は、2014年12月21日私が入会して最初に連れて来て頂いた山であり、この日はカンジキデビューした日でもある。以降、随分色んな山に連れて行っていただき、里山をソロで楽しむ機会も多くなった。文殊山二上駐車場にてワイパーに挟んであった、雪山ハイキングへの誘いチラシが全ての始まりである！謝々



鷲鞍岳１０１０ｍ

日　時　１１月２７日（日）



雨～～暗い気持ちでいつもの集合場所に。出発から１時間ほどで九頭竜国民休養地に到着、登山準備を終えて雨の中登山開始。しばらくして登山道の勘違いに気づき、ふりだしに戻る。あらためて登山開始　その後、雨は相変わらずだが登山は順調。しばらくして天気が悪いのが幸いきれいな雲海が見えた。その後も休息かねてのキノコ講習を受けながらなんとか急登を行くと頂上と間違いそうな分岐にでた。そこでいと息入れもうひと頑張りするとようやく登頂。雨の中見通しも悪く小休止と登頂の証拠写真を撮りすぐに下山。道は途中が崩れていて荒れている。こけたり尻もちをつきながら、なんとか無事駐車場に到着、その広場の隅で１時間遅れの昼食。伴藤さんの手作りキノコ入りお雑煮は美味しかった。そして国民宿舎のお風呂で疲れたからだも回復。今日はてるてる坊主頭には見放されたけど楽しい１日をありがとうございました。

全登研で「コスパ」の話をしました。

荒川勝巳

１１月５～６日と東京で開かれた全国登山研究集会に参加してきました。地方連盟からの報告者の論文審査に通ったので、交通宿泊費用とも全国連盟持ちでした。
会場の国立オリンピック記念青少年センターには全国の山仲間１３０人余りが集結。理事長の記念講演の後、各団体からの報告が夕食をはさんで続けられるという、まじめな討議づくしの日程でした。

私の話は１５分。内容は別紙の通りですが、具体例を多く盛り込み、最後にはアシの皆様ご存知の手品を披露して終わりました。直後の質問も３つばかり。この夜と翌日にわたり何人もの方から一番良かったコスパの話が心に残ったとか声をかけられました。
翌日はハイキング交流に出席。死亡事故の例も詳しく紹介があり、やはり岩場が一部でもあるところではヘルメットも必要ということを感じました。安全のためにはもっとお金を使いなさいとも言われた。

私にとっては、４０年以上ぶりの全国集会に参加。懐かしい顔が一人。奈良県連の前圭一「まえけいいち」「男前の前」ですと名乗っていましたが「奈良のシーラカンス」と名乗りを変えていました。

宮本重信会長より

全国連盟の月刊誌　登山時報12月　に　添付のように　理事長のヘルメットをとの文章がありました．赤旗新聞にも10月に　ほぼ同様の記事があった．この涸沢から奥穂高小屋までのザイテンクラートは３回通過したが　私は危ないと思った記憶が全くない．小屋からの直ぐ上での下りに，私のすぐ後から他のグループの一人が私の横をごろんごろんと落ちて更に３ｍも転がったら絶壁で止まり，助かった．身近に落下を見たのは，この一度だけである．でも，その下のザイテンクラートで１ヶ月間に６人も　下山中に落ちることは信じられない．ザイテンクラートでは，死亡の３人はヘルメットなしで，重軽傷の３名の２名はヘルメット着用で，ヘルメットは命に直結するとある．私の車の中には，工事現場でヘルメットを要することから，県を退職した５年前に山にも使えるように購入した登山用ヘルメットがいつも入っている．しかし，誰も付けてなくて大げさで風通しが悪いからと山では一度も用いていない．

今年の秋の滋賀県武奈が岳でも　立山称名の滝を見ながらの八郎坂，下りは危ないなと思った．武奈が岳は，荒川さんの沢への入水もあって，彼とは通常例会では行かないことにしようと帰りの車中で話をした．

岩場は，若い頃は，それほど危険を感じなかったのか，あるいは不都合なことは忘れるのか，高齢化でバランスの悪さを考慮すると万一のこともあるからと思っていた．折から，１１月の例会で，東京での研修会で講演をされた荒川さんの報告に，このヘルメット着用での全国連盟の呼びかけがあった．荒川さんからは，会でヘルメットの購入の補助でもしてはどうかとの提案があった．万一にも危険なところは行かない積もりの人もいるであろうし，個人装備を会費でということに私は違和感を持つ．いつまで運用するのかもある．これは今後考えていくことにしましょう．

私はチングルマに，危険箇所の有無がチングルマの案内に記載されてないことから，武奈が岳の山ではルートで死亡事故が幾つかあるという検索結果を付けて急遽パソコンメールのある方には連絡した．Ｔさんから相談があって，参加は取りやめられた．正解だったと登って思った．

以前からチングルマに，危険箇所　登る時間やコースなどを記載するとよいと思うが，いつもリーダーが例会参加の同じメンバーになり，事前に，ちんぐるまに記事を送ることなく，当日ばたばたと畑中さんに書き込んで頂き，その限界を感じている．会員が増えたので参加者も増えて楽しくなった反面，リーダーは連絡など面倒が増える．また，山でも列が長くなったり，リスクやトラブルも増える．

身近な山などから調べてリーダーを引き受けてその概要などを事前に畑中さんにチングルマの原稿として渡して頂けると助かる．また，高齢化と多様化で，人数も増えたので，山だけでなく，市内のハイキングもあってもよいのかと思う．12月の大聖寺の街めぐりと低い山の私の提案は，荒川さんの海岸線を含めて景観のよいコースとなりそうで楽しみにしている．春に提案したが，二つの低い山登りだけになったが，越前市のいわさきちひろ館　加古里子（かこさとし　絵本作家）館と村国山の周遊とか　敦賀市の　人道の港敦賀ムゼウム，天筒山，中池見周遊　小浜市の海浜公園から真珠が浜，その上の尾根など　考えるとありそうですが，どうでしょうかね．土曜日曜だと混雑などで今年も変更となった鳳凰三山や北岳も，休暇の取れる人で列車利用での山行を企画して頂けるとよいかと．大勢になったのですから，是非面白い提案をみなさんから頂けるとよいです．

ヘルメットの件も含めて，みなさんの一層の協力や提案で，楽しく安全な登山やハイキングをと思っているので，よろしくお願いします．

入会しました。

「編集後記」

山に登ると今まで気にとまらなかった自然の賑わいに驚かされる。ほんの身近な場所でおこっている命のドラマや、季節の変化を見つけることが、どれほど人々の心をあたたかくするのか、今年も沢山の山々にご縁がありました・・どうかよいお年をお迎えください。

福井県連　あしＨＣ副会長　荒川勝巳

①あしハイキングクラブは、福井勤労者山岳会の再編の過程で成立した６つの会のひとつです。山岳会のなごりも強く、雨が降っても山行をしますし、１月から３月までは1500mまでの雪山も登ります。年一回の総会、月１回の例会も10人以上があつまり、月に２回以上の山行を組んでいます。例会ごとに、Ａ４版４ページの会報をその都度発行し、欠席者には郵送しています。例会では山行の打合せはもちろん、会の運営、会員の身辺雑事などで話は盛りあがります。

会員の定着率も高く、会活動の停滞など経験したことのない会でしたが、数年ばかり前から高齢会員の引退などがあり、気がつくと13人になっていました。会員拡大の独自のとりくみがあとまわしにされていたのです。②

これではいけないということで、みんなで相談してあみだしたのが、講座と実践登山のセットプランです。あしＨＣの主催、または県連との共催でこの３年間に「ハイキング入門」「ハイキング上達」「雪山入門」「登山技術」「ハイキング〝考〟」の５つの講座を開き、すべてを会場満席で成功させてきました。（各回40人から65人参加）

あしＨＣの会員もそのたびごとに増え、現在は25人になりました。毎回の山行参加者も十数人になります。冒頭に記したような会のスタイルですから、もはや適正規模の限界に近くなったと思っています。

さて、ここで５回の講座をふり返ってみることにします。会員をのぞいた一般の参加者はのべ150人位となります。登山の知識や技術、そして文化を求める要求は確実に多くの人の中にあります。その一方で、講座を何度も受けるリピーターは少なく、山岳会に入ろうという人はさらに少数なのです。

これは、大衆登山にとりくみ、多数の入会者が続出した1970年代の経験を知る私などにとってはたいへんな驚きです。未組織の登山者を組織するとロで言うのは簡単ですが、そうはさせない問題がここには横たわっていると思います。

講座で本題に入る前に、私の方からこう問いかけたことがあります。

「いい山に、できれば連れていってほしいと思っている方はありませんか？」

なんと、多くの方がうなずくのです。いい山というのは有名な山、遠くの山、高い山です。「そういう方は民間の営利業者のツアー登山の利用をおすすめします」と私が返すと、いっせいに「あれぇ」というお顔をします。あてが外れたというわけです。そこらの低い山なら自分で行けるけど、いい山はむずかしそうだ。山岳会なら、いい山に連れていってくれるのではないか。いわば、サービスを買う消費者のような感覚にとらわれているのです。

ここからは他会の例になりますが、このような消費者感覚（費用対効果、コスパ重視）の持主に入会してもらい、それにおもねるようなことになるとたいへんです。この人たちはいっけん山行熱心で会はにぎわったようにみえても、会の運営には興味はありません。とにかくいい山へ、それも好天の日に行きたがります。30人の会員の中で４人か５人の山行でもいいのです。これをくり返すと会は小さくなります。この人たちは見切りをつけて別の会へ乗りかえます。はじめから複数の山岳会へ入って、いいとこ取りをしている人さえいます。

こういう消費者イデオロギーに対抗するのは、やはり労山創立の原点回帰とていねいな会運営です。「安く楽しく安全に」「登山をひろく大衆のものに」という理念はいまだ道なかばです。登山は、消費されるサービスではありません。ひろい意味では民主主義的な文化活動です。顔をあわせてあれこれと話しあう例会をきちんと持ち、体のすみずみまで届く血液のように会報を全員にもれなくゆきわたらせる会活動は今も原則です。メールなどの新ツールはその補助として位置づけるべきです。

かつての時代と違うのは、会員拡大をめざす私たちの前にコスパの山が立ちはだかっているということです。これにまどわされず、着実な働きかけを登山愛好者につづければ、私たちの理念を理解する仲間がふえ、会の活力も高まることは、すでに小なりとはいえ、私たちあしＨＣの実践したところです。